

研究主題「自己の健康な生活を実践しようとする態度を育てる保健領域の指導の工夫 —『習得・活用・探究』という課題解決的な学習過程を通して—」

東京都教職員研修センター企画部企画課
板橋区立板橋第二小学校 主幹教諭 韮 健治

第1 研究のねらい

今日、社会状況等の変化に伴い、子供たちの生活習慣の乱れ、メンタルヘルスに関する課題、アレルギー疾患、性の問題行動や薬物乱用など、様々な健康課題が生じている。子供たちに、このような課題を解決する力を付けていくためには、生涯を通じて健康な生活を送る基礎を培うことを目指した学校における保健教育を推進することが重要である。健康課題の解決に向けて東京都教育ビジョン（第3次・一部改定）では、体を鍛え健康に生活する力を培うために「健康づくりの推進」を示している。また、東京都教育委員会の総合的な基礎体力向上方策（「アクティブプラン to2020」）では、基本的な生活習慣の定着、栄養・運動・休養、アクティブライフの実践をバランスよく展開していく必要性が述べられている。

一方、中央教育審議会の教育課程部会では、体育科保健領域の学習において、習得した知識を活用して課題解決することや、学習したことを相手にわかりやすく伝えること等に課題があると述べられている。また、健康課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む学習が不十分であり、社会の変化に伴う新たな健康課題に対応した教育が必要との指摘もある。

これらの課題を解決するためには、保健学習の指導内容や指導方法の改善を行うとともに、児童が健康課題に関心を持ち、「今、何ができるか」「何をしなければならないか」を知り、学んだ知識を実践につなげていくことが重要である。小学校保健学習の中で、児童が身近な生活における健康に関する内容を実践的に理解し、健康な生活を実践しようとする態度を育成することが、体育科の目標である「生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力の育成」につながると考えた。

そこで、児童の意欲を高め、自己の健康な生活を実践しようとする態度を育てることを目指し、体育科保健領域のカリキュラム開発を研究のねらいとした。

第2 研究仮説

小学校中学年の保健領域の学習において、「習得・活用・探究」を明確に位置付けた学習過程を設定すれば、児童の意欲が高まり、自己の健康な生活を実践しようとする態度が身に付くだろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

中央教育審議会の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」では、「資質・能力を育成する学びの過程」について、「健康課題に関する課題解決的な学習過程を工夫し、充実を図る。」と述べられている。そのことから、保健学習の課題解決的な学習過程を、「自己の健康課題に気付き、課題の解決に必要な知識・技能の習得や改善に向けての思考・判断・表現等を通して、実生活や実社会につなげていくこと」と考えた（図1）。

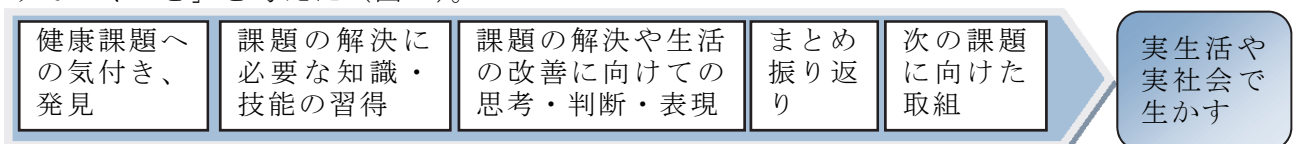


図1 保健学習の課題解決的な学習過程

2 調査研究

(1) 調査の概要

平成 28 年 7 月に都内公立小学校 12 校の第 3 学年・第 4 学年の児童に対し、保健学習に関する実態及び意識の調査を実施するとともに、都内公立小学校 12 校の教員 60 名を対象に、保健学習における指導の実態等について質問紙法により調査した。

(2) 児童向けの調査結果（回答 1,193 名）

児童の健康に対する意識と実践を質問した結果、「健康に気を付けて生活している」（意識）児童が、「保健で学んだことを自分の生活に生かしている」（実践）と肯定的な回答をした割合は 86.2%であった。自分の健康に意識の高い児童ほど実践に結び付いている割合が高いことが明らかになり（図 2）、実践しようとする態度を育成するためには、児童の健康

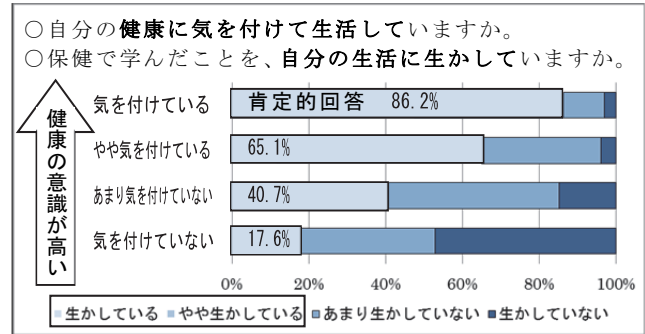


図 2 児童の健康に対する意識と実践の関係

に対する意欲を向上させる必要があることが分かった。また、同様に保健学習の時間に深く考えている児童ほど、健康な生活への実践に結び付いている割合が高いことが明らかになった。

(3) 教員向けの調査結果

教員の調査から、保健学習で様々な指導の工夫を行っている中で、「課題解決的な学習」を実施している割合が約 28%と低いことが明らかになった。このこと背景として、教員の約 6 割が指導方法を「難しい」と感じていることや、児童に思考・判断させ課題解決することよりも、知識を習得させることを重視している現状があることが挙げられる。そこで、課題解決的な学習のカリキュラムを開発し、習得した知識を活用して課題解決する活動を通して、自己の健康に対して深く考えさせる必要があると考えた。

3 開発研究

(1) 「習得・活用・探究」を明確に位置付けた単元計画

ア 1 単位時間の学習の流れ

授業の中で知識を活用して、課題解決を図る 1 単位時間の学習の流れを設定した（図 3）。まず、導入・課題設定で健康課題への気付き、発見を行えるようにする。知識習得では、児童が実践的な理解をし、知識活用では思考力・判断力等の育成を図れるようにする。また、学習した内容を次の学習につなげていくことを「探究」と捉え、課題解決の積み上げが意欲の向上につなげられるようにする。

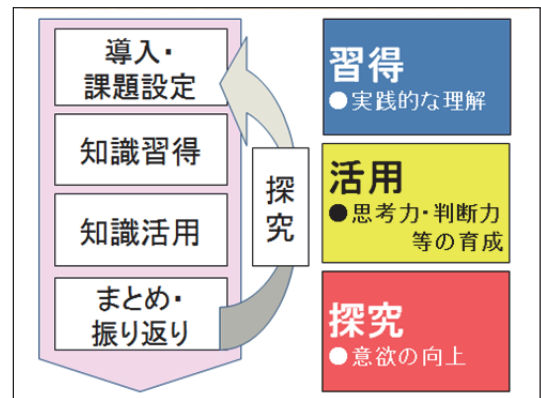


図 3 1 単位時間の学習の流れ

イ 「習得・活用・探究」の明確な位置付け

単元全体を通して、学習内容のねらいに沿って「習得・活用・探究」の活動を位置付けた。ICT 教材を活用して知識を効率的に習得できるようにするとともに、学んだ知識を自分の生活や他の事象に当てはめるなどの知識を活用する学習活動を毎時間取り入れる。

また、1 単位時間の学習の流れを毎時間繰り返すが、指導内容によって「習得・活用・探究」の重点を決めて指導を行えるよう単元計画に位置付けるとともに、授業のつながりを意識するために、授業の導入で、前時の学習や生活での実践の振り返りの時間を設定する。課題解決的な学習と健康な生活への実践を繰り返していくことで、児童の探究的な学びを深めることができると考えた（図 4）。

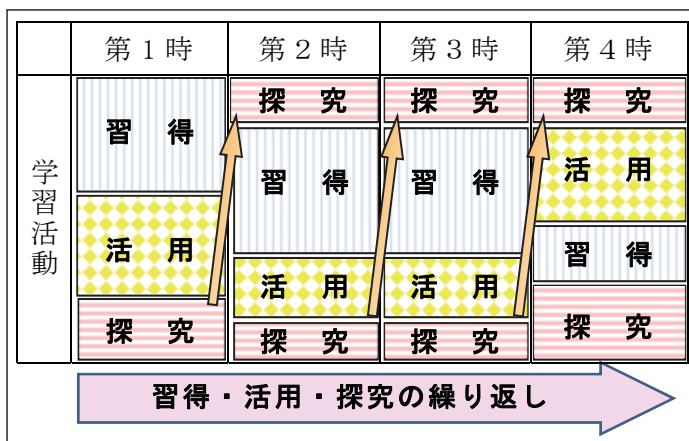


図 4 「習得・活用・探究」の明確な位置付け

(2) 課題解決的な学習過程を行うための教材の開発

ア ICT 教材

1 単位時間の学習内容が明確になるように ICT 教材を作成した。教師の発問や児童の学習活動だけでなく、実際には行うことが困難な実験の映像や、養護教諭等の多様な人材を活用した画像を盛り込んでいくことにより、児童の身近な生活における実践的な理解を促すようにする。

イ 学習カード

児童の知識習得、知識活用を見取るための学習カードを作成した。学習のまとめ・振り返りは児童の意欲面の向上を見取りやすくするために簡素化し、学習感想と合わせて評価するようにする。また、学習したことを家庭に伝えるとともに、保護者欄を設け家庭との連携を通じて、児童の実践への意欲を向上させられるようにする。（図 5）

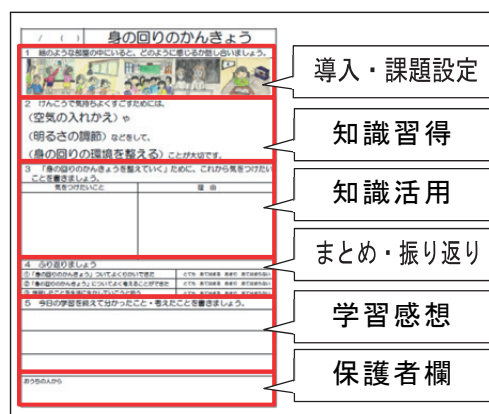


図 5 学習カード

4 検証授業

(1) 検証授業の概要（平成 28 年 11 月実施）

都内公立小学校第 3・第 4 学年を対象に、体育科保健領域「毎日の生活と健康」「育ちゆく体とわたし」（それぞれ全 4 時間）の検証授業を実施した。

(2) 「習得・活用・探究」を明確に位置付けた単元計画の有効性の検証

毎回の授業で、児童の知識習得、知識活用、実践への意欲の自己評価を行った（4 件法）。両学年とも「実践への意欲」の観点で自己評価の向上が見られた。（図 6・7）。

また、単元を通して「習得・活用・探究」の学習を繰り返し行うことで、健康に関する知識を習得して活用する学習活動を継続的に行うことができた。特に知識活用の場面では、習得した知識を自分の生活に当てはめて、

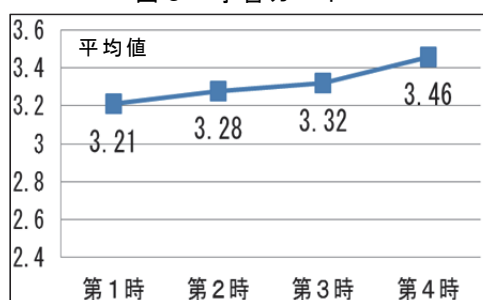


図 6 第 3 学年児童の実践への意欲に関する自己評価の変容

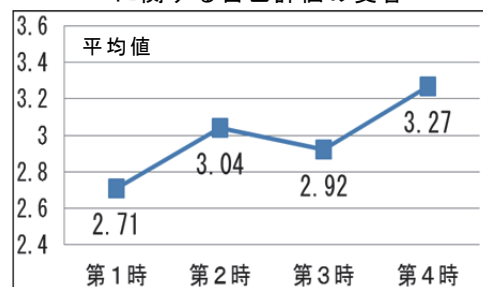


図 7 第 4 学年児童の実践への意欲に関する自己評価の変容

1日の生活リズムをつくるための「めあて」を立てたり、悩んでいる友達へのアドバイスを考えたりするなど、課題を解決する活動を通して意欲的に学習に取り組む姿が見られた。

授業の導入では、前時の学習や生活実践を振り返り、児童同士が認め合う活動を通して、友達のよい意見を参考にしたり、新たな課題を発見したりする姿が見られた。

(3) 課題解決的な学習過程を行うための教材の有効性の検証

事後アンケートで児童に総括的評価を実施した際、「分かりやすい手だて」として、「ICT教材の活用」と回答した割合が93%であり、最も多かった。

学習カードでは、知識習得や知識活用の記述に関する評価において、1時間目は「十分満足できる」児童の割合は41%であったが、4時間目は67%に向上した。単元最後の知識活用では、「健康な生活を実践しようとする」具体的な記述が見られた(表1)。

また、保護者から肯定的な言葉を掛けてもらった75%の児童は、単元を通して学習カードの記述量の増加、「実践への意欲」の観点で自己評価の向上が見られた。

表1 学習カード児童記述例

第3学年：今まで学習したことを生かして、自分が「健康な生活」を送るために、やっていきたいことを考えましょう。 自分の生活を振り返ってみたら、夜寝るのが遅いと思ったので、10時までには寝て、規則正しい生活のリズムを作ろうと思いました。
第4学年：自分の生活を振り返って、体をよりよく発育させていくために、これから気を付けたいことを考えましょう。 体のよりよい発育のためには「食事、運動、休養・睡眠」が大切だということが分かりました。これからは外で遊ぶだけでなく、家のお手伝いなどでも体を動かそうと思います。

(4) 単元前後の意識調査の結果より

単元の前後に、児童の保健学習に関する意識調査を実施した。単元前と比較すると「自分の健康に気を付けている」と肯定的に回答した児童は、39名から48名に増加した(図8)。「保健学習の時間に深く考えた」と肯定的に回答した児童も11名から17名に増加した(図9)。

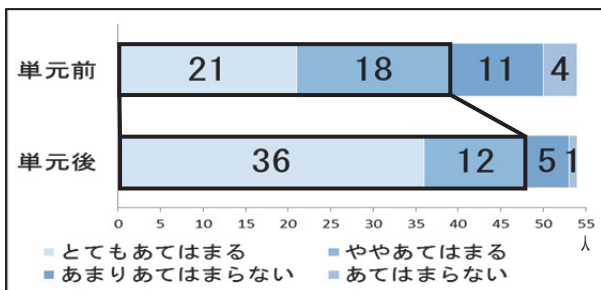


図8 単元前後の意識調査
 「自分の健康に気を付けている」についての回答

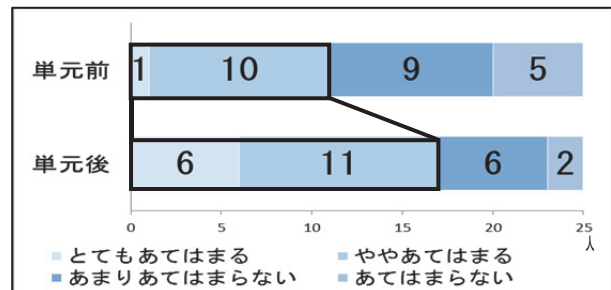


図9 単元前後の意識調査 (第4学年のみ)
 「保健学習の時間に深く考えた」についての回答

第4 研究の成果

- ・ 1単位時間の学習の流れを設定し、「習得・活用・探究」を明確に位置付けたことにより、知識習得や知識活用等の学習活動を通して保健学習の学びが深まり、児童の意欲が向上し、実践しようとする態度につながったと考える。
- ・ 課題解決的な学習過程を行うためのICT教材や学習カードは、児童の身近な生活における実践的な理解や、健康に対する意欲を向上させることに有効であったと考える。
- ・ 保護者との連携は、児童の実践への意欲を向上させることに効果があることが分かった。

第5 今後の課題

- ・ 児童の健康な生活を送るための資質や能力を育むためにも、保健学習と各教科や他職員等とのつながりを捉えた学習について明らかにしていく必要がある。
- ・ 研究開発物の改善を行うとともに有効性を追究し、研究成果の普及・啓発を図る。